

- ▶ 赤村は村内の7割を森林が占める村だが、林業従事者が不足している。森林組合はあるが労務班は無く、村内の林業就業者はわずかであり、林業従事者の担い手確保が課題である。このような状況のなか、平成30年12月、後継者の育成と林業技術の研究改善を目的として、赤村林業研究会が発足した。村としては、森林環境譲与税を活用し、当研究会の活動を支援することで、村内の担い手確保に繋げる方針である。また、令和3年度以降については、土砂災害警戒区域に指定されている里山林整備を行い、土砂災害等のリスクを軽減し村民の生命と財産を守る。
- ▶ 令和2年度においては、県林研の会費相当額の補助を行い、赤村林業研究会の活動の一助とした。また、岩石山登山道周辺の森林整備、小柳平村有林の一部を除伐、防災無線拡声子局周辺支障木を伐採を行い、景観の向上と安全の確保につながった。

□ 事業内容

- ・ 村内の担い手確保に対する支援（赤村林業研究会活動補助金）

【事業費】15千円（うち譲与税15千円）

【実績】県林研への会費として活用

- ・ 森林環境譲与税活用事業

① 岩石山登山道周辺

【事業費】921千円（うち譲与税921千円）

【実績】登山客の安全の確保と景観の向上につながった。

② 小柳平村有林の一部を除伐

【事業費】1,716千円（うち譲与税1,716千円）

【実績】電線断線、避難路遮断等を未然に防ぎ、地区のライフラインの維持につながった。

③ 防災無線拡声子局周辺支障木を伐採

【事業費】295千円（うち譲与税295千円）

【実績】防災無線の機能維持につながった。

□ 譲与額の使途状況

①令和2年度譲与額	3,540千円
②令和2年度事業費	2,947千円
③令和2年度基金積立額	593千円
④令和2年度末時点積立総額	2,246千円

□ 積立の目的

令和3年度以降については、災害防止の観点から村の防災マップに記載された土砂災害警戒区域にされている森林の整備を予定。

適切な間伐(整備)を実施することにより土砂崩れ等による災害を防ぎ、村民の生命と財産を守る。